Bull. Mukogawa Women's Univ. Nat. Sci., **56**, 79-87 (2008)
武庫川女子大紀要(自然科学)

タイ北部山岳民族の日常生活意識における民族間の比較

大野　佳美[＊1]，平井　和子[＊2]
[＊1] 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科
[＊2] 千里金蘭大学生活科学部食物栄養学科

Comparative study on daily living consciousness among hill tribes living in northern Thailand

Yoshimi Ohno [＊1] and Kazuko Hirai [＊2]

[＊1] *Department of Food Science and Nutrition, School of Human Environmental Sciences, Mukogawa Women's University, Hyogo 663-8558, Japan*
[＊2] *Department of Food and Nutrition, Faculty of Human Life Sciences, Senri Kinran University, Osaka 565-0873, Japan*

The purpose of this study is to compare the daily living consciousness among three different hill tribes (Lahi Nyi, Lo Mi Akha and Mlabri) living in northern Thailand. The subjects were asked to answer questions by interview from December 2006 to January 2007 and the results obtained were statistically analyzed using SPSS. With respect to "pleasure in daily life", most of people answered "chat" and/or "TV" besides people between 10 and 19 years old, "sports", while adults, "travel" or "festival". Forty-one to 71% of people between 10 and 19 years old answered to obtain daily information from school. Most subjects in three tribes worked "for the family". However, in females of Mlabri, people between 10 and 19 years old (about 33%) answered "happy to be able to work" and over 40's (40%) did "natural obligation". The subjects mostly considered that traditions supported people's lives and majority of them answered "yes" on psychological factors. They seemed to satisfy themselves or the relationship to other people when they felt less stress or slept well. Mlabri seemed to have different daily living consciousness and views on psychological factors from other two tribes. This might be related to their living style which they worked as laborers in the fields of other tribes and earned some money. The results also indicated that there were some differences between people between 10 and 19 years old and adults as well as those among three tribes. The traditional life style and probably daily living consciousness and views on psychological factors of people between 10 and 19 years old will change gradually by their growing up to obtain liberal education and a lot of information from mass-media and so on.

緒　言

タイ北部および東北部に居住する少数民族を山岳民族と称し，現在タイ政府はこれら10の山岳民族を指定している[1)2)]．このうち，ラフ族やアカ族は主に20世紀に入ってミャンマーやラオスから移住してきた民族で高地に住み，焼畑移動耕作，豚や鶏の飼育およびケシ栽培を生活源としていた[1)2)3)]．ラフ族は山岳民族の11.2%，アカ族は7.4%を占める．ムラブリ族は本来，森の中を移動して狩猟・採集生活をしていたが，近年タイ政府の定住化指導により2県(ナーンとプレー県)に

のみ居住し，全部で 282 人といわれている．タイ政府はこれら山岳民族の伝統的な生活を尊重しながらも社会経済的な問題を解消し，生活レベル向上のために 1980 年以降ケシ栽培禁止政策を実施し，その代替としての収入源や生活手段確保となる稲作，野菜や果樹栽培等を指導，奨励している．このような焼畑移動耕作や狩猟・採集生活から定住化した生活様式への変化，他民族との交流等山岳民族の生活環境が顕著に変動してきた．一方，宇都宮等はタイ北部の児童・生徒等の間食の取り方には地域差があり，これは経済的・社会的・文化的要因が関与していると報告している[4) 5) 6)]．そこで，このような生活環境変容のなかで山岳民族の日常生活意識および心的要因への認識を把握することによって各民族間の日常生活意識および意識間の関連を明らかにするために調査を行った．さらに，モン族の調査結果[7) 8)]と比較検討した．

調査方法

1. 調査地と対象者

2006 年 12 月～2007 年 1 月にチェンライ県の 2 村，ジャトーブー村のラフ・ニ族（ラフ族），159 人とメーモン村，ロ・ミ・アカ族（アカ族），152 人およびナーン県ホイユワク村のムラブリ族，42 人（男 1 人は年齢不明のため集計から除外），10 歳以上を対象に調査を行った．

ジャトーブー村は約 50 軒のラフ族が農業に従事して，果実，とうもろこし，タバコ，生姜等を栽培し，生姜は主な換金商品である．メーモン村にはアカ族とリス族が住んでおり，約 200 軒のうち 70～80 軒がアカ族で，換金商品はコーヒー豆である．ナーン県ホイユワク村はムラブリ族がタイ政府の指導により定住した村の一つで約 20 軒，159 人が住んでいる[1) 2)]．定住により米やとうもろこし等を栽培するようになったが，狩猟（小動物）やイモ，果実の採集や賃金労働者として働き生活している者が多い．

2. 調査方法

調査目的と内容を住民に説明して同意を得た者に対面式で直接聞き取る方法で調査を行った．

調査内容は，喫煙・飲酒習慣，身体活動，睡眠，働くこと，日常生活の楽しみおよび情報源，日常生活にかかわる心的要因への認識であった．

3. 分析方法

10 代のほとんどが「学生」と回答したので対象者を男女別に 10 代，20～30 代および 40 代以上の 3 グループに分けて集計した．各調査項目の集計および統計解析は SPSS（SPSS Base 11.5J, SPSS Japan Inc.）を使用し，集計結果に対する χ^2 検定は分割表を用いて検討し，有意水準は 5% 以下とした．また，測定項目間の関連を検討した．

結　果

1. 喫煙・飲酒習慣

喫煙・飲酒習慣は 3 民族とも男より女のほうが，また，20 代以上男女よりも 10 代のほうが低かった（表 1）．ラフ族男 40 代以上ではタバコを「20 本以上 / 日」が 24.1%，酒を「毎日飲む」が 10.3% であったが，それぞれ半数近くが「吸わない」「飲まない」と回答した．タバコを「吸わない」と回答した者は，アカ族男 40 代以上では 6.3%，ムラブリ族男 20 代以上は 0% で，男の中では少なかった．20 代以上の喫煙・飲酒習慣者は民族，男女により異なるが，「飲まない」よりも「吸わない」割合が少なく，女ではラフ族 40 代以上の「吸わない」は 55.6% で他民族や年代（77～100%）よりも割合が少なかった．

2. 身体活動および睡眠

一日の活動時間を「7 時間以上」と回答した者は民族に関わらず男女とも 20 代以上に多く，その身体活動レベルは「立位」「筋肉労働」または「重労働」であった（表 2）．3 民族中，ラフ族 20 代以上男の 54～55%，女の約 41% が「重労働」と回答し，他民族，年代よりも割合が特に多かった．逆に 10 代男女は民族に関わらず活動時間が少なく，「座位」の回答が多かった．

10 代は「非常によく眠れる」の割合が多かったが，20 代以上ではこの割合は民族，男女により異なった．ラフ族およびムラブリ族女では高年齢ほど「非常によく眠れる」の割合が少なかったが，40 代以上ではこの割合が 41～60% であった．アカ族男とムラブリ族女に「あまりよく眠れない」と回答した者はいなかった．

3. 働くこと，日常生活の楽しみ，情報源

働くことは「家族のため」が 3 民族とも最も多く，この他は民族により割合が異なるが「収入のため」や「当然の義務」であり，「働けるのは幸福」

Table 1. 喫煙および飲酒習慣 (%)

項目	ラフ族				アカ族				ムラブリ族				民族間の χ^2 検定
	10代	20–30代	40代以上	χ^2 検定	10代	20–30代	40代以上	χ^2 検定	10代	20–30代	40代以上	χ^2 検定	
男（n）	（n=27）	（n=24）	（n=29）		（n=27）	（n=27）	（n=16）		（n=4）	（n=5）	（n=7）		
喫煙													
20本以上 / 日	0.0	8.3	24.1		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	14.3		
10–19本 / 日	3.7	20.8	10.3		0.0	3.7	6.3		0.0	0.0	0.0		
7–9本 / 日	0.0	8.3	0.0		3.7	22.2	25.0		0.0	0.0	14.3		
4–6本 / 日	0.0	20.8	17.2	$p<0.001$	3.7	3.7	25.0	$p<0.001$	0.0	0.0	0.0	ns	$p<0.001$
1–3本 / 日	3.7	12.5	3.4		0.0	3.7	12.5		25.0	80.0	57.1		
2–3本 / 週	0.0	0.0	0.0		0.0	7.4	18.8		0.0	20.0	14.3		
吸わない	92.6	29.2	44.8		88.9	59.3	6.3		75.0	0.0	0.0		
飲酒													
毎日飲む	0.0	0.0	10.3		0.0	0.0	6.3		0.0	0.0	0.0		
2–3回 / 週	7.4	37.5	17.2	$p<0.001$	3.7	0.0	12.5	ns	0.0	0.0	42.9	$p<0.05$	ns
2–3回 / 月	3.7	25.0	24.1		18.5	25.9	25.0		0.0	80.0	14.3		
飲まない	88.9	37.5	48.3		74.1	70.4	56.3		100.0	20.0	42.9		
女（n）	（n=20）	（n=32）	（n=27）		（n=26）	（n=22）	（n=34）		（n=12）	（n=8）	（n=5）		
喫煙													
20本以上 / 日	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
10–19本 / 日	0.0	3.1	3.7		0.0	0.0	5.9		0.0	0.0	0.0		
7–9本 / 日	0.0	3.1	7.4		0.0	0.0	8.8		0.0	12.5	20.0		
4–6本 / 日	0.0	0.0	22.2	$p<0.05$	0.0	0.0	5.9	ns	0.0	0.0	0.0	$p<0.001$	ns
1–3本 / 日	0.0	3.1	7.4		0.0	0.0	2.9		0.0	0.0	0.0		
2–3本 / 週	0.0	0.0	3.7		0.0	4.5	0.0		0.0	0.0	0.0		
吸わない	95.0	87.5	55.6		92.3	90.9	76.5		100.0	87.5	80.0		
飲酒													
毎日飲む	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
2–3回 / 週	0.0	3.1	0.0	ns	0.0	0.0	0.0	ns	0.0	0.0	0.0	ns	ns
2–3回 / 月	5.0	9.4	11.1		0.0	0.0	2.9		0.0	12.5	0.0		
飲まない	90.0	84.4	88.9		100.0	95.5	97.1		100.0	87.5	100.0		

無回答を示していない.

Table 2. 身体活動および睡眠 (%)

項目	ラフ族				アカ族				ムラブリ族				民族間の χ^2 検定
	10代	20–30代	40代以上	χ^2 検定	10代	20–30代	40代以上	χ^2 検定	10代	20–30代	40代以上	χ^2 検定	
男（n）	（n=27）	（n=24）	（n=29）		（n=27）	（n=27）	（n=16）		（n=4）	（n=5）	（n=7）		
一日の活動時間													
7時間以上	14.8	66.7	79.3		22.2	81.5	50.0		0.0	80.0	85.7		
5–6時間	14.8	20.8	6.9		14.8	11.1	37.5		25.0	0.0	0.0		
3–4時間	40.7	12.5	3.4	$p<0.001$	25.9	0.0	0.0	$p<0.001$	0.0	20.0	0.0	$p<0.01$	ns
1–2時間	25.9	0.0	6.9		33.3	3.7	12.5		50.0	0.0	0.0		
ほとんど何もしない	3.7	0.0	3.4		0.0	3.7	0.0		25.0	0.0	14.3		
身体活動レベル													
ほとんど座位	85.2	0.0	6.9		70.4	7.4	6.3		50.0	0.0	14.3		
立位, 6–7時間	0.0	29.2	13.8	$p<0.001$	14.8	63.0	87.5	$p<0.001$	50.0	20.0	85.7	$p<0.01$	$p<0.001$
筋肉労働, 1時間	7.4	16.7	24.1		11.1	0.0	0.0		0.0	80.0	0.0		
重労働, 2時間	7.4	54.2	55.2		0.0	22.2	6.3		0.0	0.0	0.0		
睡眠は													
非常によく眠れる	77.7	66.7	34.5		77.8	66.7	75.0		100.0	40.0	100.0		
時々眠れない	22.2	20.8	51.7	$p<0.01$	18.5	33.3	25.0	ns	0.0	40.0	0.0	ns	ns
あまりよく眠れない	0.0	12.5	13.8		0.0	0.0	0.0		0.0	20.0	0.0		
女（n）	（n=20）	（n=32）	（n=27）		（n=26）	（n=22）	（n=34）		（n=12）	（n=8）	（n=5）		
一日の活動時間													
7時間以上	5.0	59.4	55.6		3.8	81.8	50.0		8.3	87.5	20.0		
5–6時間	5.0	18.8	22.2		11.5	13.6	23.5		25.0	12.5	40.0		
3–4時間	35.0	12.5	11.1	$p<0.001$	26.9	4.5	8.8	$p<0.001$	25.0	0.0	40.0	ns	ns
1–2時間	50.0	9.4	3.7		42.3	0.0	14.7		16.7	0.0	0.0		
ほとんど何もしない	5.0	0.0	7.4		15.4	0.0	2.9		25.0	0.0	0.0		
身体活動レベル													
ほとんど座位	85.0	9.4	18.5		80.8	0.0	14.7		75.0	0.0	0.0		
立位, 6–7時間	5.0	34.4	18.5	$p<0.001$	15.4	86.4	79.4	$p<0.001$	25.0	62.5	80.0	$p<0.05$	$p<0.001$
筋肉労働, 1時間	0.0	15.6	22.2		0.0	9.1	2.9		0.0	25.0	20.0		
重労働, 2時間	5.0	40.6	40.7		0.0	4.5	2.9		0.0	12.5	0.0		
睡眠は													
非常によく眠れる	70.0	50.0	40.7		69.2	81.8	55.9		100.0	75.0	60.0		
時々眠れない	25.0	40.6	29.6	ns	23.1	9.1	44.1	$p<0.05$	0.0	25.0	40.0	ns	$p<0.01$
あまりよく眠れない	5.0	9.4	29.6		7.7	9.1	0.0		0.0	0.0	0.0		

無回答を示していない.

Table 3. 働くこと，日常生活での楽しみおよび情報源 （%）

項目	ラフ族				アカ族				ムラブリ族				民族間の χ^2 検定
	10 代	20–30 代	40 代以上	χ^2 検定	10 代	20–30 代	40 代以上	χ^2 検定	10 代	20–30 代	40 代以上	χ^2 検定	
男（n）	（n=27）	（n=24）	（n=29）		（n=27）	（n=27）	（n=16）		（n=4）	（n=5）	（n=7）		
働くことは													
当然の義務	37.0	54.2	48.3		25.9	40.7	18.8		0.0	0.0	0.0		
働けるのが幸福	18.5	4.2	6.9	ns	18.5	3.7	18.8	ns	0.0	0.0	0.0	ns	ns
収入のため	29.6	33.3	51.7		25.9	14.8	31.3		50.0	60.0	14.3		
家族のため	48.1	70.1	56.2		48.1	74.1	75.0		75.0	100.0	100.0		
日常生活の楽しみ													
会話	37.0	66.7	72.4		37.0	59.3	75.0		50.0	60.0	85.7		
スポーツ	74.1	20.8	10.3		66.7	59.3	0.0		75.0	0.0	0.0		
祭り等行事	18.5	37.5	41.4		3.7	22.2	0.0		25.0	0.0	0.0		
テレビを見る	48.1	37.5	27.6	ns	33.3	59.3	43.8	ns	25.0	80.0	42.9	ns	$p<0.05$
ラジオを聴く	29.6	20.8	13.8		14.8	44.4	18.8		25.0	20.0	14.3		
映画を見る	18.5	8.3	6.9		14.8	29.6	12.5		0.0	0.0	0.0		
旅行	25.9	41.7	41.4		3.7	14.8	0.0		0.0	0.0	0.0		
日常生活の情報源													
テレビ	44.4	54.2	44.8		45.0	37.5	25.9		50.0	40.0	42.9		
ラジオ	7.4	16.7	6.9		25.0	12.5	11.1		25.0	0.0	28.6		
家族・親戚	25.9	20.8	20.7		10.0	21.9	40.7		0.0	40.0	42.9		
友人	33.3	37.5	34.5	$p<0.05$	20.0	37.5	22.2	$p<0.05$	50.0	60.0	57.1	ns	ns
仕事上の人	3.7	100.0	0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
隣人	7.4	33.3	51.7		15.0	50.0	44.4		0.0	80.0	28.6		
学校	40.7	0.0	0.0		55.0	3.1	0.0		75.0	0.0	0.0		
その他	3.7	8.3	13.8		0.0	6.3	3.7		0.0	0.0	0.0		
女（n）	（n=20）	（n=32）	（n=27）		（n=26）	（n=22）	（n=34）		（n=12）	（n=8）	（n=5）		
働くことは													
当然の義務	30.0	37.5	18.5		19.2	4.5	8.8		16.7	0.0	40.0		
働けるのが幸福	5.0	6.3	14.8	ns	11.5	0.0	8.8	ns	33.3	0.0	0.0	ns	$p<0.05$
収入のため	40.0	53.1	37.5		15.4	50.0	32.4		0.0	37.5	0.0		
家族のため	65.0	84.4	37.5		57.7	81.8	76.5		83.3	100.0	60.0		
日常生活の楽しみ													
会話	35.0	65.6	88.9		50.0	72.7	79.4		50.0	100.0	100.0		
スポーツ	60.0	9.4	7.4		69.3	0.0	0.0		75.0	0.0	0.0		
祭り等行事	15.0	31.3	25.9		7.7	13.6	8.8		0.0	0.0	0.0		
テレビを見る	35.0	46.9	44.4	$p<0.05$	50.0	45.5	50.0	$p<0.05$	25.0	37.5	0.0	ns	ns
ラジオを聴く	20.0	25.0	7.4		26.9	22.7	17.6		0.0	25.0	0.0		
映画を見る	5.0	21.9	3.7		11.5	0.0	0.0		8.3	0.0	0.0		
旅行	20.0	28.1	11.1		23.1	4.5	17.6		0.0	12.5	20.0		
日常生活の情報源													
テレビ	77.8	81.5	50.0		73.1	54.5	26.5		50.0	50.0	20.0		
ラジオ	25.9	44.4	6.3		38.5	11.5	8.8		8.3	50.0	40.0		
家族・親戚	7.4	40.7	56.3		34.6	22.7	61.8		16.7	12.5	20.0		
友人	33.3	51.9	62.3	$p<0.05$	53.8	54.5	52.9	$p<0.01$	33.3	37.5	60.0	ns	$p<0.05$
仕事上の人	0.0	100.0	0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	12.5	0.0		
隣人	7.4	33.3	18.8		11.5	36.4	52.9		8.3	75.0	40.0		
学校	25.9	11.1	0.0		50.0	0.0	0.0		50.0	0.0	0.0		
その他	3.7	0.0	0.0		3.8	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		

複数回答可.

が少なかった（表 3）．しかし，ムラブリ族女の 10 代と 40 代以上には「収入のため」はなく，前者は「働けるのは幸福」が約 33%，後者は「当然の義務」が 40% あった．また，ムラブリ族男では「当然の義務」「働けるのは幸福」と回答した者はいなかった．

日常生活の楽しみは男女，年代，民族に共通して「会話」「テレビをみる」であったが，10 代では「スポーツ」が他年代よりも多かった．ラフ族男 20 代以上の約 40% が「旅行」，同男女の 26～41% が「祭り等行事」で他民族よりも割合が多かった．

日常生活の情報源は「テレビ」「家族･親戚」「友人」が多く，他に 10 代ではラフ族女の約 26% 以外は 41～75% が情報源を「学校」とし，20 代以上では「仕事上の人」「隣人」が多く，その他には「新聞」「本」等があった．

4. 日常生活に関わる心的要因に対する認識

ラフ族男 10 代では日常生活の役割分担に肯定的な回答は約 70% で，最も多く（表 4 - 1），ラフ族女およびムラブリ族女 10 代も同様に多かった（表 4 - 2）が，アカ族男女 20 代以上とムラブリ族男の 50% 以上が役割分担に否定的であった．「家

Table 4-1. 日常生活に関わる心的要因に対する認識（男） （%）

項目	ラフ族				アカ族				ムラブリ族				民族間の
	10 代	20–30 代	40 代以上	χ^2 検定	10 代	20–30 代	40 代以上	χ^2 検定	10 代	20–30 代	40 代以上	χ^2 検定	χ^2 検定
日常生活上の役割は家族全員で分担するべきである													
はい	70.4	50.0	58.6		51.9	29.6	37.5		50.0	20.0	42.9		
いいえ	22.2	37.5	31.0	ns	37.0	55.6	62.5	ns	50.0	60.0	57.1	ns	ns
どちらともいえない	7.4	6.9	12.5		7.4	14.8	0.0		0.0	20.0	0.0		
家族や友人を助けるのは当然である													
はい	100.0	100.0	100.0		96.3	88.9	93.8		75.0	80.0	100.0		
いいえ	0.0	0.0	0.0	ns	3.7	3.7	6.3	ns	25.0	0.0	0.0	ns	ns
どちらともいえない	0.0	0.0	0.0		0.0	7.4	0.0		0.0	20.0	0.0		
伝統的習慣は人々の絆や支えになっている													
はい	92.6	100.0	100.0		92.6	85.2	100.0		100.0	80.0	85.7		
いいえ	3.7	0.0	0.0	ns	3.7	7.4	0.0	ns	0.0	20.0	14.3	ns	ns
どちらともいえない	0.0	0.0	0.0		0.0	7.4	0.0		0.0	0.0	0.0		
人間関係に満足している													
はい	100.0	100.0	93.1		88.9	92.6	81.3		75.0	80.0	71.4		
いいえ	0.0	0.0	3.4	ns	11.1	3.7	12.5	ns	25.0	20.0	28.6	ns	$p<0.01$
どちらともいえない	0.0	0.0	3.4		0.0	3.7	6.3		0.0	0.0	0.0		
現在の社会は人間関係が豊かである													
はい	81.5	87.5	93.1		77.8	81.5	93.8		25.0	100.0	71.4		
いいえ	18.5	4.2	0.0	ns	11.1	7.4	0.0	ns	75.0	0.0	14.3	ns	ns
どちらともいえない	0.0	8.3	6.9		7.4	11.1	0.0		0.0	0.0	0.0		
ストレスを感じることがある													
はい	33.3	87.5	75.9		14.8	55.6	31.3		50.0	40.0	28.6		
いいえ	63.0	4.2	13.8	ns	77.8	29.6	62.5	$p<0.01$	50.0	40.0	42.9	ns	$p<0.01$
どちらともいえない	3.7	8.3	10.3		7.4	14.8	6.3		0.0	20.0	28.6		
穏やかな心や精神を持つことは大切である													
はい	100.0	100.0	100.0		100.0	96.3	96.2		100.0	100.0	100.0		
いいえ	0.0	0.0	0.0	ns	0.0	0.0	3.8	ns	0.0	0.0	0.0	ns	$p<0.05$
どちらともいえない	0.0	0.0	0.0		0.0	3.7	0.0		0.0	0.0	0.0		
毎日の生活を楽しく過ごしている													
はい	92.6	95.8	75.9		96.3	81.5	87.5		100.0	80.0	57.1		
いいえ	7.4	4.2	13.8	ns	0.0	11.1	12.5	ns	0.0	0.0	42.9	ns	ns
どちらともいえない	0.0	0.0	10.3		3.7	7.4	0.0		0.0	20.0	0.0		
自分自身に満足している													
はい	96.3	70.8	65.5		92.6	88.9	87.5		100.0	100.0	85.7		
いいえ	3.7	25.0	31.0	ns	7.4	3.7	6.3	ns	0.0	0.0	14.4	ns	ns
どちらともいえない	0.0	4.2	3.4		0.0	7.4	6.3		0.0	0.0	0.0		

無回答を示していない.

族や友人への援助」「伝統的習慣」「人間関係に満足」「現在社会における人間関係」等に肯定的な回答が多かったが，ムラブリ族男の 20～29% が人間関係に「満足していない」，同女 10～30 代の 13～17% が「どちらともいえない」，同男 10 代の 75% が「現在の社会では人間関係が豊かでない」と回答した. ストレスを「感じる」との回答は民族，年代により異なり，ラフ族男 20 代以上，同女 40 代以上およびムラブリ族女 40 代以上の約 76% がストレスを「感じる」と回答した．民族，男女，年代に関わらず 96% 以上が「穏やかな心や精神を持つことは大切である」と回答した．ラフ族女 40 代以上，ムラブリ族男女 40 代以上の割合はやや低かったが，72% 以上が「毎日を楽しく過ごしている」であった．自分自身への満足度の最も低かったのはラフ族女 40 代以上およびムラブリ族女 20～30 代の約 63% で，ムラブリ族男女 10 代および同男 20～30 代の全対象者は「満足している」と回答した．

5. 調査項目間の関連性

ラフ族およびアカ族では睡眠と身体活動レベル間に有意な関連性はなかった（表 5）．ムラブリ族男の「非常によく眠れる」では身体活動レベルの「立位」が 69%，「時々眠れない」「あまりよく眠れない」の 100% は「筋肉労働」と回答し，女では「非常によく眠れる」に「重労働」が，「時々眠れない」に「ほとんど座位」はなかった．ラフ族男女およびムラブリ族女の「時々眠れない」「あまりよく眠れない」ではストレスを「感じる」が 73～100% であった．一方，アカ族男女では「非常によく眠れる」の 65～75% はストレスを「感じない」と回答した．ラフ族, アカ族およびムラブリ族女では「非常によく眠れる」では「自分自身に満足」の割合が「時々眠れない」よりも多く，特に女では 3 民族と

Table 4-2. 日常生活に関わる心的要因に対する認識（女）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（%）

項目	ラフ族 10 代	ラフ族 20–30 代	ラフ族 40 代以上	ラフ族 χ^2 検定	アカ族 10 代	アカ族 20–30 代	アカ族 40 代以上	アカ族 χ^2 検定	ムラブリ族 10 代	ムラブリ族 20–30 代	ムラブリ族 40 代以上	ムラブリ族 χ^2 検定	民族間の χ^2 検定
日常生活上の役割は家族全員で分担するべきである													
はい	80.0	78.1	74.1		65.4	40.9	41.2		91.7	50.0	60.0		
いいえ	15.0	12.5	18.5	ns	30.8	59.1	55.9	ns	0.0	25.0	40.0	$p<0.05$	$p<0.001$
どちらともいえない	0.0	6.3	0.0		3.8	0.0	2.9		0.0	25.0	0.0		
家族や友人を助けるのは当然である													
はい	95.0	96.9	96.3		96.2	95.5	97.1		100.0	100.0	100.0		
いいえ	0.0	0.0	0.0	ns	3.8	4.5	0.0	ns	0.0	0.0	0.0	ns	ns
どちらともいえない	5.0	3.1	0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
伝統的習慣は人々の絆や支えになっている													
はい	100.0	96.9	100.0		92.6	95.5	97.1		100.0	100.0	100.0		
いいえ	0.0	3.1	0.0	ns	3.7	4.5	2.9	ns	0.0	0.0	0.0	ns	ns
どちらともいえない	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
人間関係に満足している													
はい	90.0	90.6	100.0		96.2	90.9	94.1		75.0	87.5	100.0		
いいえ	10.0	9.4	0.0	ns	3.8	0.0	2.9	ns	8.3	0.0	0.0	ns	$p<0.05$
どちらともいえない	0.0	0.0	0.0		0.0	9.1	2.9		16.7	12.5	0.0		
現在の社会は人間関係が豊かである													
はい	75.0	81.3	81.5		73.1	86.4	97.1		83.3	87.5	100.0		
いいえ	25.0	6.3	14.8	ns	15.4	4.5	0.0	ns	8.3	12.5	0.0	ns	ns
どちらともいえない	0.0	6.3	3.7		7.7	9.1	2.9		0.0	0.0	0.0		
ストレスを感じることがある													
はい	55.0	65.6	81.5		11.5	22.7	35.3		25.0	62.5	80.0		
いいえ	45.0	28.1	18.5	ns	76.9	59.1	55.9	ns	75.0	25.0	20.0	ns	$p<0.001$
どちらともいえない	0.0	6.3	0.0		11.5	18.2	8.8		0.0	12.5	0.0		
穏やかな心や精神を持つことは大切である													
はい	100.0	100.0	96.3		96.2	95.5	97.1		100.0	100.0	100.0		
いいえ	0.0	0.0	3.7	ns	3.8	0.0	0.0	ns	0.0	0.0	0.0	ns	ns
どちらともいえない	0.0	0.0	0.0		0.0	4.5	2.9		0.0	0.0	0.0		
毎日の生活を楽しく過ごしている													
はい	85.0	71.9	55.6		92.3	81.8	85.3		91.7	87.5	60.0		
いいえ	5.0	18.8	25.9	ns	0.0	9.1	11.8	ns	0.0	0.0	20.0	ns	ns
どちらともいえない	10.0	9.4	18.5		7.7	9.1	2.9		8.3	12.5	20.0		
自分自身に満足している													
はい	70.0	75.0	63.0		96.2	81.8	76.5		100.0	62.5	80.0		
いいえ	30.0	25.0	37.0	ns	3.8	18.2	20.6	ns	0.0	12.5	20.0	ns	$p<0.01$
どちらともいえない	0.0	4.2	0.0		0.0	0.0	2.9		0.0	25.0	0.0		

無回答を示していない.

もこれらの関連性は有意であった．ムラブリ族男のほとんどが睡眠の程度に関わらず「自分自身に満足」と回答した．

ストレスと身体活動レベルとの関連は民族，男女により異なった（表 6）．アカ族女とムラブリ族男にストレスと調査項目間に有意な関連性はなかった．ラフ族男ではストレスを「感じる」に「重労働」の割合が多く，アカ族およびムラブリ族男女ではストレスの有無に関わらず 43〜75% が「立位」であった．ストレスを「感じない」と回答した多くの者は「毎日を楽しく過ごしている」であり，「自分自身に満足」であった．しかし，ムラブリ族では男女ともストレスを「感じる」と回答した者のほうが「感じない」者よりも「毎日の生活を楽しく過ごしている」の割合が多く，他民族とは異なった．

考　察

10 代男女の喫煙・飲酒習慣は民族に関わらず低く，20 代以上では飲酒よりも喫煙習慣のほうが低い傾向にあり，これはモン族とは逆の結果であった[7]．ラフ族女 40 代以上のタバコを「吸わない」はモン族（100%）[7, 8] や中国モンゴル族（85〜100%）[9] よりも少なかったが，日本 20 代以上女（41%）[10] よりも割合が多かった

民族に関わらず 10 代の一日の活動時間が 20 代以上に比べて少なく，「ほとんど座位」が多かったのは 10 代のほとんどが学生であったためと考えられた．日常の身体活動レベルには民族差がみられたが，一日の活動時間や身体活動レベルから推測するとどの民族も 20〜30 代が最もよく働き一家の生活を支えていると思われた．3 民族とも 10 代の「非常によく眠れる」の割合（70〜100%）はモ

Table 5. 民族別睡眠と身体活動レベル，ストレス，自分自身への満足度との関連性 (%)

項目	睡眠(男)				睡眠(女)				男女全体の関連性 χ^2 検定
	非常によく眠れる	時々眠れない	あまりよく眠れない	χ^2 検定	非常によく眠れる	時々眠れない	あまりよく眠れない	χ^2 検定	
ラフ族									
身体活動レベル									
ほとんど座位	38.3	26.9	0.0		36.6	30.8	16.7		
立位，6–7 時間	8.5	23.1	14.3	ns	12.2	30.8	33.3	ns	ns
筋肉労働，1 時間	14.9	11.5	42.9		14.6	7.7	25.0		
重労働，2 時間	38.3	38.5	42.9		34.1	30.8	25.0		
ストレスを感じることがある									
はい	55.3	73.1	100.0		53.7	84.6	83.3		
いいえ	36.2	19.2	0.0	ns	46.3	7.7	16.7	$p<0.01$	ns
どちらともいえない	8.5	7.7	0.0		0.0	7.7	0.0		
自分自身に満足している									
はい	85.1	65.4	71.4		85.4	61.5	33.3		
いいえ	12.8	30.8	28.6	ns	14.6	38.5	66.7	$p<0.001$	$p<0.01$
どちらともいえない	2.1	3.8	0.0		0.0	0.0	0.0		
アカ族									
身体活動レベル									
ほとんど座位	37.3	11.1	0.0		34.1	21.7	50.0		
立位，6–7 時間	49.0	55.6	0.0	ns	60.0	65.2	50.0	ns	ns
筋肉労働，1 時間	2.0	11.1	0.0		3.6	4.3	0.0		
重労働，2 時間	5.9	22.2	0.0		1.8	4.3	0.0		
ストレスを感じることがある									
はい	25.5	55.6	0.0		14.5	43.5	50.0		
いいえ	64.7	33.3	0.0	ns	74.5	43.5	25.0	$p<0.05$	$p<0.01$
どちらともいえない	9.8	11.1	0.0		10.9	13.0	25.0		
自分自身に満足している									
はい	90.2	88.9	0.0		92.7	65.2	75.0		
いいえ	5.9	5.6	0.0	ns	5.5	34.8	25.0	$p<0.05$	ns
どちらともいえない	3.9	5.6	0.0		1.8	0.0	0.0		
ムラブリ族									
身体活動レベル									
ほとんど座位	23.1	0.0	0.0		40.9	0.0	0.0		
立位，6–7 時間	69.2	0.0	0.0	$p<0.05$	50.0	50.0	0.0	$p<0.05$	$p<0.01$
筋肉労働，1 時間	7.7	100.0	100.0		9.1	25.0	0.0		
重労働，2 時間	0.0	0.0	0.0		0.0	25.0	0.0		
ストレスを感じることがある									
はい	46.2	50.0	100.0		40.9	75.0	0.0		
いいえ	30.8	50.0	0.0	ns	59.1	0.0	0.0	$p<0.01$	ns
どちらともいえない	23.1	0.0	0.0		0.0	25.0	0.0		
自分自身に満足している									
はい	92.3	100.0	100.0		95.5	25.0	0.0		
いいえ	7.7	0.0	0.0	ns	0.0	50.0	0.0	$p<0.001$	$p<0.05$
どちらともいえない	0.0	0.0	0.0		4.5	25.0	0.0		

無回答を除外.

ン族小学生男女(36～54%)[7]よりも多かった.

働くことは「家族のため」が男女とも 20 代以上(ラフ族 40 代以上を除いて 60～100%)に多く，これはモン族(63～76%)と同様[7]であり，モンゴル族(17～56%)[9]とは異なった.

日常生活の楽しみおよび情報源が「会話」「テレビ」「友人」「家族・親戚」等であることから，友人や家族等との会話を楽しみつつ同時に生活に必要な情報も得ていることが推測された．また，10 代男女が情報源を「学校」と回答したことは教育を通して多くの情報や知識を得ていることを示唆し，「テレビ」等マスメディアによる情報の取捨選択ができる知識や能力を若年期における教育の現場で培う等，学校での実行可能な生活全般の教育の重要性が指摘される.

本来，日本において考えられているような家族における男女間の明確な分業はみられず，家族の一員としてできる役割を分担して行うという考えが「役割分担」の回答にみられた．ラフ族男 10 代と女およびムラブリ族女 10 代では役割分担に肯定的な割合はモン族(62～66%)よりも高い傾向を示したが，その他ではモン族[7]やモンゴル族(10 代男女および 40 代男以外 72%)[9]と同程度あるいは低かった．伝統的習慣は「人々の絆や心の支え

Table 6. 民族別ストレスと身体活動レベル，毎日を楽しく過ごしている，自分自身への満足度との関連性　（%）

項目	ストレスを感じる（男）				ストレスを感じる（女）				男女全体の関連性 χ^2 検定
	はい	いいえ	どちらともいえない	χ^2 検定	はい	いいえ	どちらともいえない	χ^2 検定	
ラフ族									
身体活動レベル									
ほとんど座位	19.2	68.2	0.0		31.5	34.8	0.0		
立位，6–7 時間	15.4	0.0	50.0	$p<0.001$	25.9	8.7	50.0	ns	$p<0.001$
筋肉労働，1 時間	19.2	4.5	33.3		11.1	17.4	50.0		
重労働，2 時間	46.2	27.3	16.7		31.5	34.8	0.0		
毎日の生活を楽しく過ごしている									
はい	82.7	95.5	100.0		64.8	87.0	0.0		
いいえ	11.5	4.5	0.0	ns	22.2	8.7	0.0	$p<0.001$	$p<0.05$
どちらともいえない	5.8	0.0	0.0		13.0	4.3	100.0		
自分自身に満足している									
はい	71.2	95.4	66.7		63.0	82.6	100.0		
いいえ	26.9	0.0	33.3	ns	37.0	17.4	0.0	ns	ns
どちらともいえない	1.9	4.5	0.0		0.0	3.6	0.0		
アカ族									
身体活動レベル									
ほとんど座位	8.3	43.6	42.9		20.0	36.5	30.0		
立位，6–7 時間	58.3	46.2	42.9	ns	75.0	55.8	60.0	ns	ns
筋肉労働，1 時間	8.3	2.6	0.0		0.0	3.8	10.0		
重労働，2 時間	20.8	2.6	14.3		5.0	1.9	0.0		
毎日の生活を楽しく過ごしている									
はい	91.7	89.7	71.4		80.0	92.3	70.0		
いいえ	8.3	7.7	0.0	$p<0.05$	15.0	3.8	10.0	ns	$p<0.01$
どちらともいえない	0.0	2.6	28.6		5.0	3.8	20.0		
自分自身に満足している									
はい	91.7	92.3	71.4		80.0	88.5	70.0		
いいえ	4.2	7.7	0.0	$p<0.05$	20.0	11.5	20.0	ns	$p<0.001$
どちらともいえない	4.2	0.0	28.6		0.0	0.0	10.0		
ムラブリ族									
身体活動レベル									
ほとんど座位	16.7	28.6	0.0		25.0	46.2	0.0		
立位，6–7 時間	50.0	42.9	100.0	ns	58.3	46.2	0.0	$p<0.001$	$p<0.05$
筋肉労働，1 時間	33.3	28.6	0.0		16.7	7.7	0.0		
重労働，2 時間	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	100.0		
毎日の生活を楽しく過ごしている									
はい	83.3	71.4	66.7		91.7	84.6	0.0		
いいえ	16.7	28.6	0.0	ns	8.3	0.0	0.0	$p<0.05$	$p<0.05$
どちらともいえない	0.0	0.0	33.3		0.0	15.4	100.0		
自分自身に満足している									
はい	100.0	100.0	66.7		75.0	100.0	0.0		
いいえ	0.0	0.0	33.3	ns	8.3	0.0	100.0	$p<0.01$	$p<0.01$
どちらともいえない	0.0	0.0	0.0		16.7	0.0	0.0		

無回答を除外.

になっている」は日本人（男女各々 65% と 69%）[11]やモンゴル族（81% 以下）[9]より多く，ネパール山岳民族（90%）[11]やモン族（成人男女 94～96%）[7]と同程度であった．

身体活動レベルや生活環境，人間関係等が睡眠やストレスと関連することが示唆された．日常の生活が楽しく，人間関係や自分自身への満足度が高いとストレスが少なく，よく眠ることができる．すなわち，ストレスがないと回答した者では心的要因に肯定的な回答が多く，これは精神的健康を高めるためには日常の苛立ち事を適切に対処してストレスを軽減することが要求されるという報告[12]からも支持された．ムラブリ族は核家族単位で狩猟や採集をして移動生活をしていたために自作できる畑を得る機会が少なかったと推測される．その上，他民族の開墾により大型の野生動物が住める森林が少なくなったことや定住化により生活環境が他民族より大きく変化したと思われる．ラフ族やアカ族のように自分の畑を持ち，年間の農作業計画をたてる必然性のある民族とムラブリ族のように主に他民族に雇われて生活している民族では日常生活における他人（他民族）との関わり方，仕事および日常生活に対する考え方や心的要因への認識も異なると思われる．ラフ族やア

カ族は，親族や民族としての村社会があり，家族内の年長者や村の長のもとに規律ある生活をして現在に至っている．本来，これらの民族は精霊信仰であるが，ラフ族にキリスト教がかなり浸透し，村の中に教会がある．このような生活環境の違いが彼等の日常生活や心的要因に影響を与え，ムラブリ族と他の民族間に有意差がみられたと推測された．

3 民族とも生活全般の不満は少なく，精神的にも健全な認識を持ち，伝統的習慣への価値観は高く，人々は誇りを持って生活していると思われた．しかし，10 代のほとんどは学生であったことから就学率が高く，教育や都会での生活経験，テレビ等マスメディアによる情報がこれからの生活環境や日常生活・心的認識等に影響を与えると考えられる．その結果，若者の都市生活への憧れ，生活全般の都市型移行によって，民族に関わらず若者の伝統への価値観が失われていくと思われ，この速さは各民族の置かれている生活環境や経済的要因等の影響が大きいと思われる．

要　約

タイ北部に居住する 3 民族（ラフ・ニ族 159 人，ロ・ミ・アカ族 152 人，ムラブリ族 42 人）を対象に 2006 年 12 月から 2007 年 1 月に日常生活意識に関するアンケート調査を行い，得られた結果を民族間で比較した．

対象者のほとんどは「日常生活の楽しみ」を「会話」「TV」と回答し，その他に 10 代では「スポーツ」，20 代以上では「旅行」「祭り等行事」であった．10 代の 41～71% は「日常生活の情報源」を「学校」と回答した．3 民族とも多くの者は「家族のために働く」と回答したが，ムラブリ族女では 10 代の約 33% は「働けるのは幸福」，40 代以上の 40% は「当然の義務」であった．対象者の多くは「伝統的習慣は人々の絆や支えになっている」と回答し，心的要因については「はい」が多かった．ストレスを「感じない」または「よく眠れる」では「自分自身に満足」「人間関係に満足」であった．しかし，ムラブリ族は日常生活意識や心的要因について他の 2 民族とは多少異なっていた．これはムラブリ族の生活状況が定住化した現在でも狩猟（小動物）やイモ，果実の採集や賃金労働者として働き生活している者が多いことによると考えられた．また，10 代は民族間と同様に 20 代以上とは異なった日常生活意識を持っていると考えられた．10 代では学校教育や TV 等から得られる情報源が伝統的な生活習慣に対する考え方，日常生活意識や心的要因に大きく影響すると思われる．

謝　辞

本調査にご協力いただきました対象者の皆様，調査の実施に当たり多大なご援助を賜りましたタイ，チェンライ，さくらプロジェクト代表三輪隆氏および多くの方々に心より感謝いたします．

文　献

1）Hongwiwat N.，Chang Mai & The Hill Tribes，Sang-dad Publishing Co. Ltd.，Bangkok，pp. 28-46，109-121（2002）

2）Technical Service Club，Tribal Museum，The Hill Tribes of Thailand，Technical Service Club，Chang Mai，pp.1-12，22-24，31-33，p.44（2004）

3）ジョージナ・アシュワース編，世界の少数民族を知る事典，明石書店，東京，pp. 70-73（1990）

4）宇都宮由佳，益本仁雄，家政誌，50，1035-1048（1999）

5）宇都宮由佳，益本仁雄，大澤清二，家政誌，53，561-574（2002）

6）宇都宮由佳，益本仁雄，大澤清二，家政誌，54，365-376（2003）

7）平井和子，大野佳美，中山ニーパー，岡崎久美，薗田雅子，古崎和代，長谷川めぐみ，八木千鶴，日本食生活学会誌，15，160-169（2004）

8）大野佳美，平井和子，調理食品と技術，11，155-161（2005）

9）大野佳美，平井和子，格日勒，保健の科学，48，149-157（2006）

10）健康・情報研究会編，国民栄養の現状　平成 16 年厚生労働省国民栄養調査結果，第一出版，東京，pp.199-200（2006）

11）大野佳美，平井和子，浅野眞智子，樋口寿，武副玲子，家政誌，52，391-400（2001）

12）青木邦男，学校保健研究，44，391-402（2002）